



両 中 四 季



令和7年11月10日 第8号

さらなる充実に向けて

11月1日（土）の**ふたかわ祭**には、たくさんの皆様にご来校いただき、ありがとうございました。今年度も探究発表・作品展示・NECの三本立てで実施しました。日頃の学習成果の発表や圧巻のステージパフォーマンスなどを通して、心身ともに健全に成長している生徒の姿を、存分にご覧いただけたのではないのでしょうか。当校では、この成果を後半の教育活動に生かしていきます。皆様のご支援を引き続きよろしくお願いいたします。



4月に実施した**全国学力・学習状況調査**の結果が届きました。この調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することを目的として、毎年中学3年生（と小学6年生）を対象に実施されています。

下記の通り、実施3教科とも全国の平均を大きく上回っています。当校のこの傾向は、ここ数年続いています。これは生徒自身の学び意欲、教科担任の指導力、そして家庭の協力があってからこそその結果であり、言い換えれば、両川地区の教育力の高さと言えます。よいスパイラルがさらに継続・発展するよう、教職員一丸となって取り組んでいきます。



結果と考察

	両川中	新潟市	新潟県	全国
国語	62	55	54	54.3
数学	56	47	46	48.3
理科	542	507	498	503



＜国語について＞全体的に、全国平均・県平均より高い結果である。特に、「漢字の書き取り」は、21.9ポイント全国平均を上回っており、言語事項については知識が十分身に付いていると判断できる。しかし、「自分の考えをわかりやすく伝えるように表現する工夫」に関する設問については、2問とも県・全国平均より低く、今後強化が必要である。

＜数学について＞15問中、全国より10ポイント以上高いものが7項目あり、特に「式の証明」は、26.2ポイント高くなっている。逆に、全国より低い項目が5項目あった。

「相対度数の意味」は、-6.8ポイントとなっており、理解が不十分であった。知識・理解を大切にしつつも、数学的な見方・考え方が深まる授業づくりを今後も進めていく。

＜理科について＞22項目中、20項目で全国の正答率を上回った。下回った2項目は、「地層を構成する粒の大きさ」「水中生物の呼吸」で、ともに1年生で学習した分野であった。今後、苦手とする分野を中心に既習の学習内容についても振り返りを行い、定着を図っていきたい。

